

小林市文化財調査報告書第10集

猫坂遺跡

えびのリゾートランド建設事業に伴う発掘調査報告書

宮崎県小林市教育委員会

はじめに

小林市は、宮崎県南西部、霧島火山のふもとにあり、古くは日向国十六駅の一つである夷守駅の所在地に比定されるなど、歴史と伝説を残す町です。現在は花と星空と湧水の美しい田園観光都市として発展を続けています。

猫坂地区では平成6年度にえびのリゾートランド建設事業に伴う発掘調査を行いました。その結果、縄文時代の集石遺構が5基発見されました。

これらが学校教育、生涯学習の一環として広く活用されることを願ってやみません。

最後に、発掘調査に際しましては、株式会社伏見屋、戸田建設株式会社および地元の皆さんには多大なるご理解、ご協力をいただきました。また宮崎県文化課の方々をはじめ、調査に快くご協力くださいました地元の方々、また調査、整理作業に従事してくださいました皆さんに対して厚くお礼を申し上げます。

平成8年3月

宮崎県小林市教育委員会

教育長 瀬戸口 克彦

例　　言

- (1) 本書はえびのリゾートランド建設事業に伴う、埋蔵文化財調査報告書です。
- (2) 発掘調査は株式会社伏見屋の委託を受け、小林市教育委員会が実施しました。
- (3) 発掘調査地は小林市大字北西方字猫坂ほかです。
- (4) 調査は平成6年度に実施され、整理・報告書作成を平成7年度に行いました。
- (5) 調査面積は4,350m²です。
- (6) 本書の遺構・土層図等にみられるレベル数値は海拔絶対高です。
- (7) 本書の執筆・写真撮影・編集は中村真由美が担当しました。
- (8) 遺物実測・製図・トレイス・写真図版等の分担は次のとおりです。
- ・遺物の水洗・注記・整理・分類
有島・上田・北野
 - ・遺物の復元・接合
有島・上田・北野
- (9) 本書に関する記録・図面・及び出土遺物は小林市教育委員会が保管しています。

本文目次

第1章 調査の経緯	
第1節 調査にいたる経緯	1
第2節 調査の組織	1
第2章 地理的・歴史的環境	
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第3章 遺跡の調査	
第1節 位置と環境	2
第2節 調査に至る契機	2
第3節 調査の概要	2
1区の調査	3
2区の調査	3
3区の調査	3
4区の調査	3
第4節 遺物	
表採遺物（第12図）	3
押型文土器（第12図）	3
石器（第13図）	3
第5節 まとめ	3

挿図目次

第1図 市内遺跡位置図	2
第2図 猫坂遺跡基本層序	3
第3図 猫坂遺跡位置図	4
第4図 1区地形図	5
第5図 1区集石	6
第6図 2区地形図	7
第7図 3区地形図	8
第8図 3区集石1	9
第9図 3区集石2	10
第10図 4区地形図	11
第11図 4区集石	12
第12図 出土遺物（土器）	13
第13図 出土遺物（石器）	14

第1章 調査の経緯

第1節 調査にいたる経緯

えびのリゾートランド開発事業は、ミニゴルフ場建設を中心としており、総事業面積68,371m²である。小林市教育委員会では平成5年度に事業予定地を試掘調査したところ、遺物の分布を確認した。

そこで、株式会社伏見屋、戸田建設株式会社、県文化課、及び市教育委員会の四者で埋蔵文化財の保護について協議を行った。その結果、事業施工上現状保存が困難な部分について記録保存の措置をとることになった。調査は市教育委員会が主体となり、4,350m²を平成6年9月26日から平成7年1月27日まで調査を実施した。

第2節 調査の組織

調査の組織は次のとおりである。

調査主体 小林市教育委員会
教育長 濑戸口克彦
社会教育課長 黒木英夫（平成6年）
谷山己知雄（平成7年）
社会教育係長 原口勝年
調査員 中村真由美
発掘作業員

整理作業員

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

小林盆地は、北を四方十層群からなる東日向山地、西を加久藤溶結凝灰岩からなる溶灰岩台地に、また南を霧島火山群によって囲まれている。地形は、北部の四方十層群を基盤とする扇状地と、南部の霧島火山の溶岩流末端から形成された新旧の扇状地、および海拔200m前後のシラス台地とからなり、盆地底の大部分はシラス台地とそれが侵食されて形成された段丘からなり、最低位に氾濫原性低地がかなり発達している。河川は、盆地内を石冰川などの小河川が流れ、合流して大淀川の支流岩瀬川となって東流し、西部では川内川支流の池島川が西流する。また、市内には湧水も多く、約50ヶ所点在する。¹⁾

第2節 歴史的環境

小林市の遺跡は、平成4、5年度実施の市内遺跡詳細分布調査では163か所確認されている。²⁾

次に、これまで調査・報告されている遺跡について、時代別に概略を挙げる。

旧石器時代の遺跡は、横峰追（大字南西方横峰追）で黒曜石製の打製石器が採集されている。³⁾

縄文時代の遺跡は、本田遺跡⁴⁾（大字東方字板ノ下）、山中前遺跡⁵⁾（大字細野字山中前）、鬼塚遺跡⁶⁾（大字南西方字鬼塚）、こまくりげ遺跡⁷⁾（大字細野字出の山）などがある。なかでも本田遺跡は、前期の住居としては県内唯一であり、県指定を受けている。

弥生時代の遺跡の調査例としては、鬼塚ヒレ原遺跡⁸⁾（大字南西方字ヒレ原）の掘立柱建物跡がある。そのほか東方、永久津、南西方で石包丁が出土しており、また、小林小学校所蔵の重孤文土器片が知られている。

古墳時代の遺跡例は、地下式横穴墓が東二原⁹⁾（大字真方字東二原）、下の平¹⁰⁾（大字平流迫下の平）、新田場¹¹⁾（大字真方字新田場）、尾中原¹²⁾（大字北西方字尾中原）等で確認されている。また、水落¹³⁾（大字細野字水落）、平木場遺跡¹⁴⁾（大字南西方字平木場）では住居跡が調査されている。

歴史時代では、日向国16駅の一つ、夷守駅所在地が大字細野字夷守に比定されている。¹⁵⁾平安時代の遺跡としては、竹山遺跡¹⁶⁾（大字細野字竹山）、こまくりげ遺跡から布痕土器などが出土している。中世の山城では、三山城（大字細野字城山）、小林城（大字真方字下の馬場）、内木場城（大字東方字内木場）、野首城（大字東方字野首）、岩牟礼城（大字東方字城ヶ迫）¹⁷⁾などがあり、古石塔群が德屋下（大字真方字徳屋下）、大久津（大字東方字大久津）、下り（大字東方字下り）にある。近世では、水落遺跡で江戸時代の墓が検出されている。

参考文献

- 1) 経済企画庁総合開発局『土地分類図（宮崎県）』1974
- 2) 中村真由美「市内遺跡詳細分布調査報告書」『小林市文化財調査報告書』第7集 小林市教育委員会 1994
- 3) 2) に同じ
- 4) 鈴木重治「本田遺跡」『宮崎県史 資料編 考古1』宮崎県 1989
- 5) 石川恒太郎「中山ノ前住居跡」『宮崎県の考古学』吉川弘文館 1968
- ※報告には「中山ノ前」とあるが、実際の字名は「山中前」であり、本書では後者を用いた。
- 6) 中村真由美「鬼塚遺跡」『小林市文化財調査報告書』第3集 小林市教育委員会 1991
- 7) 田中 康「こまくりげ遺跡」『九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告』(1)宮崎県教育委員会 1973
- 8) 中村真由美「鬼塚ヒレ原遺跡」『小林市文化財調査報告書』第4集 小林市教育委員会1992
- 9) 永友良典・長友都子・面高哲郎「東二原地下式横穴墓群・下の平地下式横穴墓群」『小林市文化財調査報告書』第6集 小林市教育委員会 1993

- 10) 9) に同じ
- 11) 面高哲郎・長津宗重「新田場地下式横穴墓群」『宮崎県文化財調査報告書』第34集 宮崎県教育委員会 1991
- 12) 石川恒太郎「尾中原地下式古墳」『地下式古墳の研究』帝国地方行政学会 1973
- 13) 長津宗重・長友郁子「水落遺跡」『小林市文化財調査報告書』第1集 小林市教育委員会 1990
- 14) 安楽 勉「平木場遺跡」『九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告』(1)宮崎県教育委員会 1973
- 15) 藤岡謙次郎「日向國」『古代日本の交通路(協)』大明堂 1979
- 16) 5) に同じ
- 17) 平部口南「日向地誌」1884

第3章 遺跡の調査

第1節 位置と環境

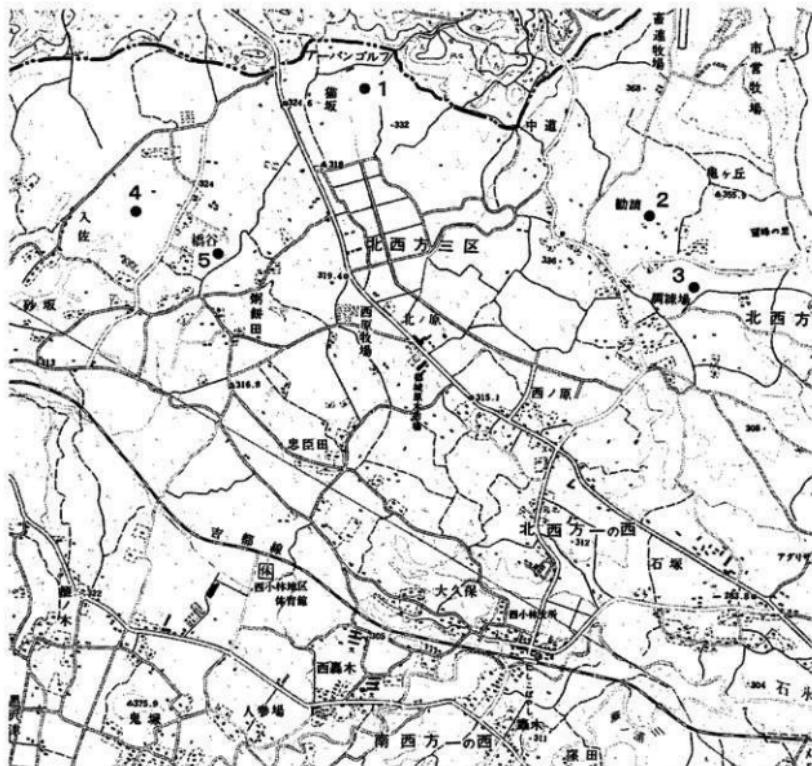
当遺跡は、市内北西部、えびの市に隣接し、標高は約200mである。九州山地より広がる扇状地の麓に位置する。

第2節 調査に至る契機

株式会社伏伏見屋との協議の結果、工事実施面積68,371m²のうち、4,350m²について発掘調査を実施することになった。

第3節 調査の概要

調査期間は平成6年9月26日から平成7年1月27日で、調査予定地を1~4区に設定した。



第1図 市内遺跡位置図 (縮尺2万5千分の1)

1. 猫板遺跡 2. 勘請遺跡群 3. 調練場遺跡群 4. 入佐遺跡群 5. 橋谷遺跡群

猫坂地区の基本層序は次のとおりである（第2図）。

- 第1層耕作土
- 第2層黒ボク土
- 第3層アカホヤ火山灰土
- 第4層牛ノ脛火山灰土
- 第5層黒褐色土
- 第6層サツマ火山灰土
- 第7層灰褐色粘質土

第6層のサツマ火山灰土層はブロック状に混入しており、4区のみ確認された。遺構は第5層黒褐色土面で検出した。

1
2
3
4
5
7

第2図 猫坂遺跡基本層序

1区の調査（第4～6図）

1区は平坦な地形で、アカホヤ面にはピットが点在しているが、時代は不明である。トレンチを2ヶ所設定し、牛ノ脣火山灰下まで掘削したところ、集石遺構が2基検出された。石材は主に河原石からなり、加熱による赤変等は見られなかった。

2区の調査

2区は平坦な地形で、アカホヤ面にはピットが点在しているが、時代は不明である。アカホヤ面下より遺構・遺物とも出土しなかった。

3区の調査（第7～9図）

3区は平坦な地形で、アカホヤ面にはピットが点在しているが、時代は不明である。トレンチを1ヶ所設定し、牛ノ脣火山灰下まで掘削したところ、集石遺構が2基検出された。1区同様、石材は主に河原石からなり、加熱による赤変等は見られなかった。

4区の調査（第10、11図）

4区は東西方向に傾斜する地形で、アカホヤ面にはピットが点在しているが、木の根跡と思われる。牛ノ脣火山灰下まで掘削したところ、集石が1基検出された。

1区同様、石材は主に河原石からなり、加熱による赤変等は見られなかった。

第4節 遺物（第12～13図）

表掲された遺物（第12図）

1～4は弥生土器で、すべて1区から出土した。2は妻の肩部片、3は口縁部片、4は台付妻の底部である。5、6土師器である。5は鉢の口縁部～肩部である。6は壺である。

押型文土器（第12図）

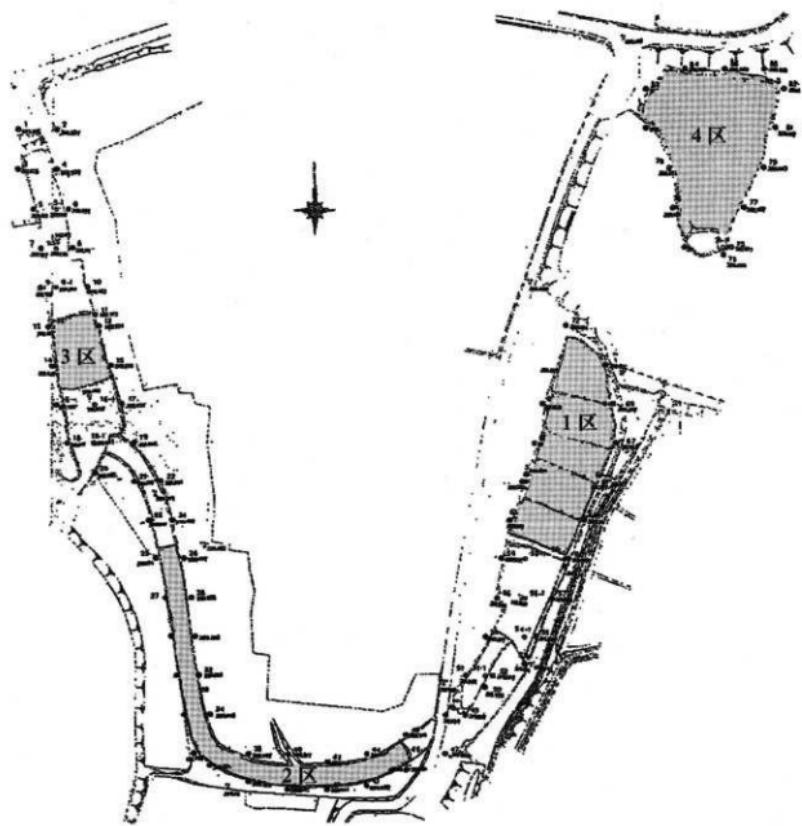
7～13は口縁部である。7は外面及び口縁部内面に横位のだ円の押型文を施している。9～12は外面に縦位のだ円押型文を施している。13は外面に縦位のだ円押型文を施している。14～16は肩部片で、だ円、山形の押型文をそれぞれ施している。

石器（第13図）

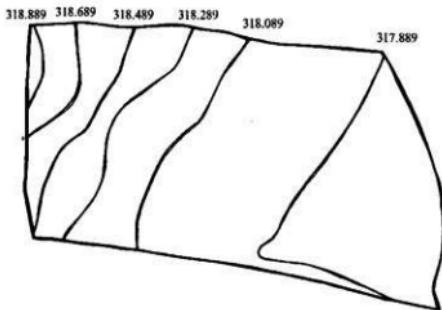
17～19は1区から出土した。17はチャート製石鏃、18、19は黒曜石製剝片である。20～24は3区から出土した。20～22はチャート製石鏃である。23は黒曜石製の石槍である。24は黒曜石製剝片である。25～28は4区から出土した。25、26は黒曜石製、26はチャート製、27は圭賀岩製の剝片である。

第5節まとめ

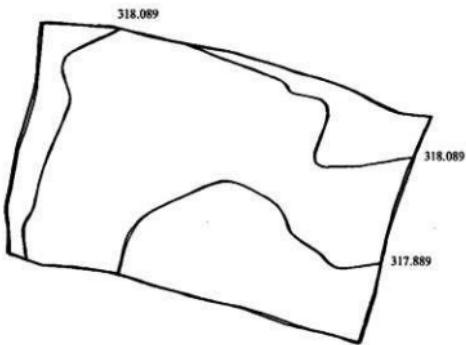
猫坂遺跡からは绳文時代早期から弥生時代、古墳時代、古代にわたる遺物が確認されている。遺構については集石遺構が牛ノ脣火山灰下より検出されている。諸般の事情により調査区全体の調査はできなかった。弥生時代以降の遺物のほとんどが表土より出土しており、遺構らしきものアカホヤ面でピットが数基確認されるのみである。また猫坂遺跡の北側に接する茶屋平遺跡からは古墳時代の住居跡が発見されており、弥生時代以降の猫坂地区は集落の縁辺部であったと考えられる。



第3図 猫坂遺跡位置図（縮尺1000分の1）

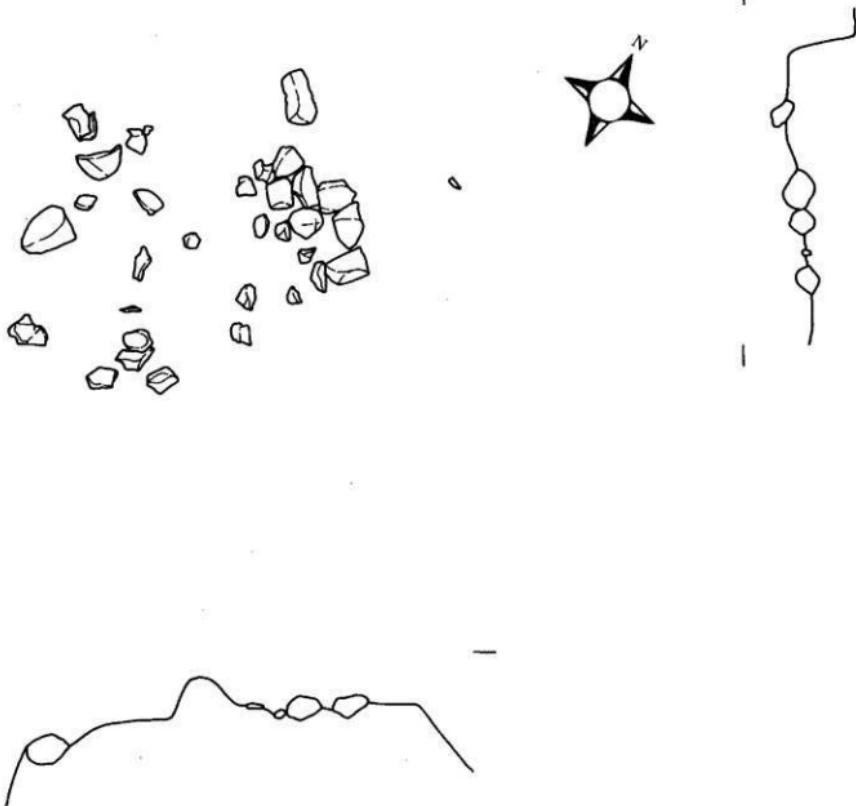


1 トレンチ

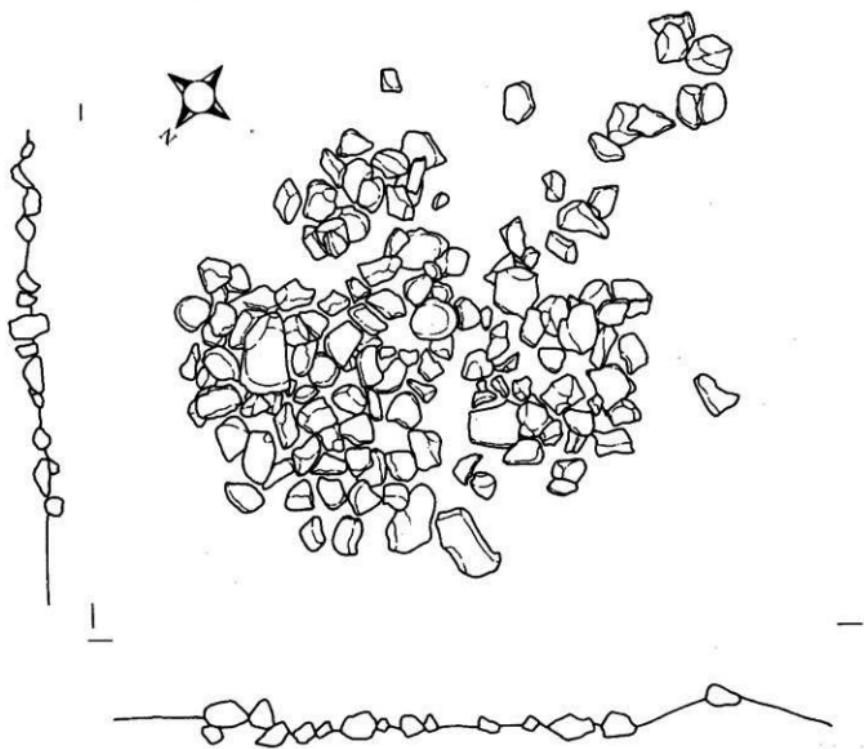


2 トレンチ

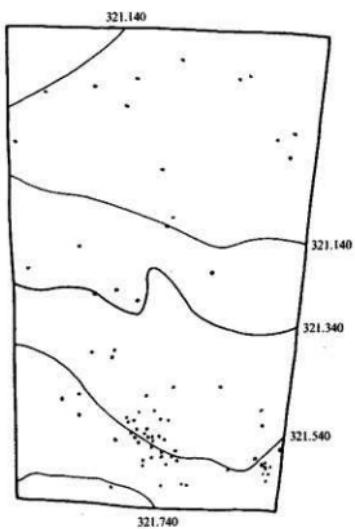
第4図 1区地形図（縮尺200分の1）



第5図 1区1トレンチ集石 (縮尺10分の1)



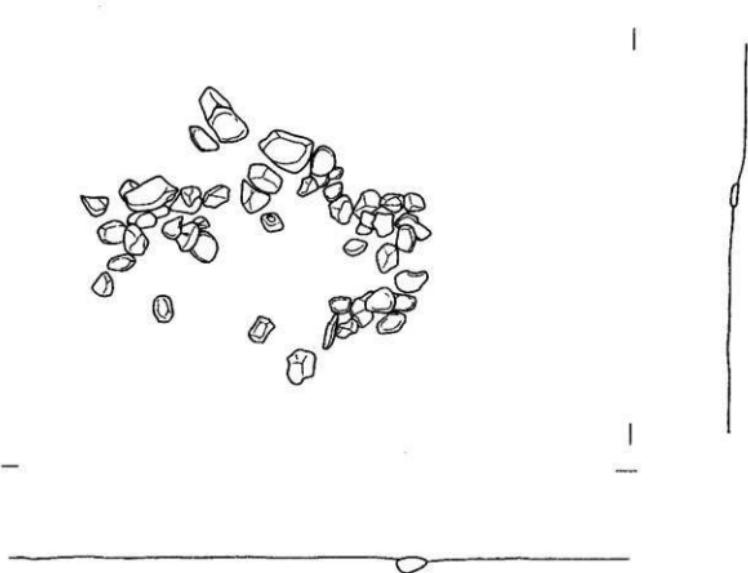
第6図 1区2トレンチ集石（縮尺10分の1）



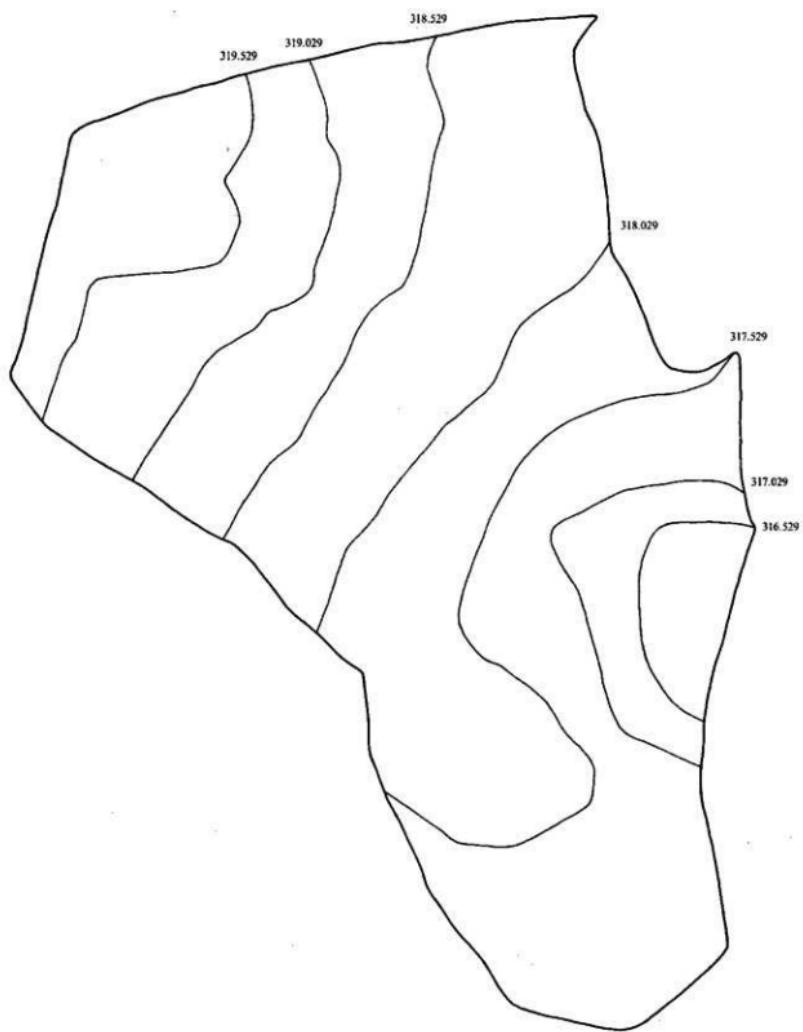
第7図 3区地形図（縮尺200分の1）



第8図 3区集石1 (縮尺10分の1)



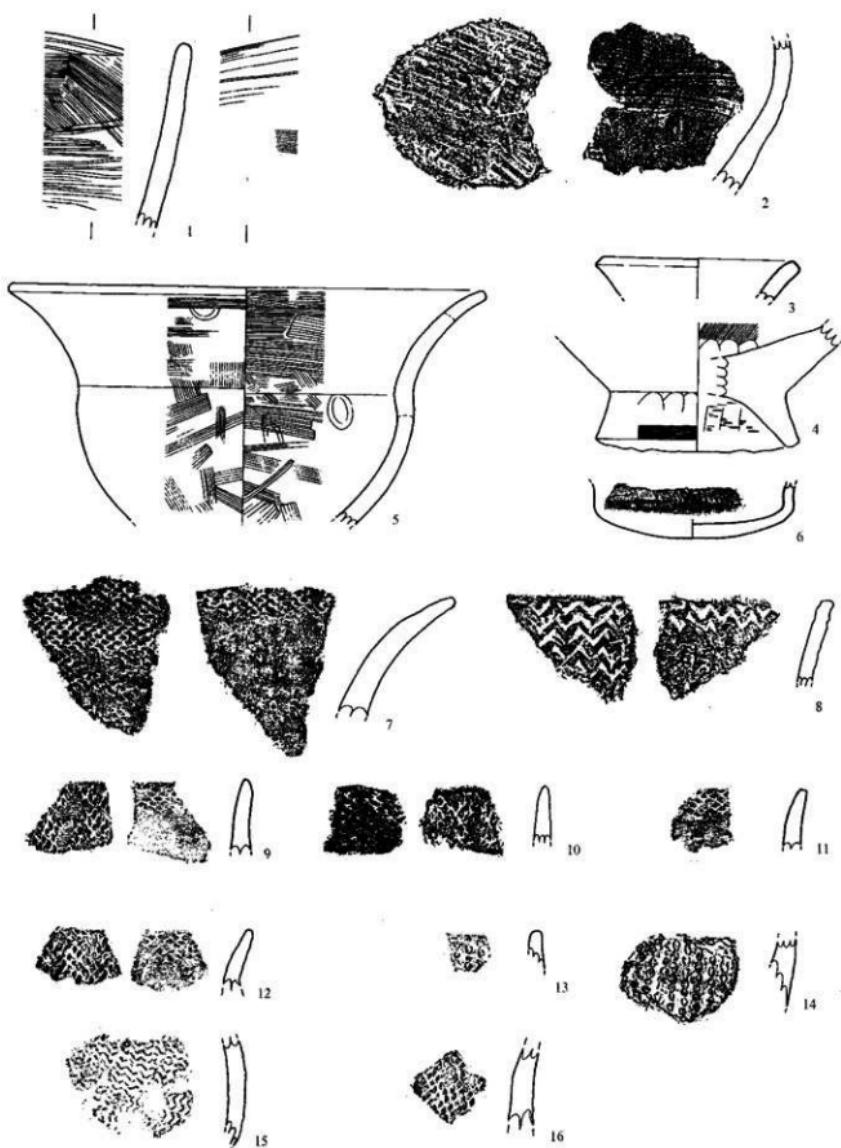
第9図 3区集石2 (縮尺10分の1)



第10図 4区地形図（縮尺200分の1）



第11図 4区集石（縮尺10分の1）



第12図 猫坂出土遺物（土器 縮尺3分の1）



第13図 猫坂出土遺物（石器 縮尺3分の2）

